
 宇宙にまつわる、この時期らしい言葉を集めてみました 

つきてんしん -月天心-

日本では、冬至の頃の満月が一年で一番高いところを通ります。頭の真上に、こうこうと輝く姿はまるで天の中心をゆくようです。

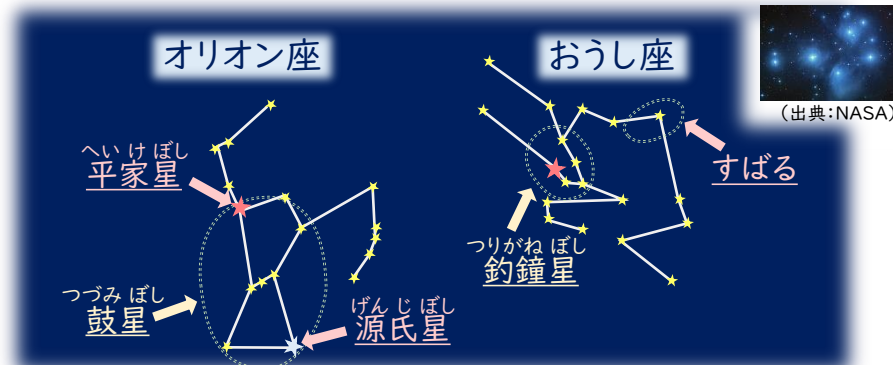


つきば -月映え-

月の光に照らされて、美しく映えることをいいます。日の入りが早いこの頃、ぜひ“月映え”な一枚を探してみてください。「闇はあやなきを、月映えは今少し心ことなりと定め聞こえし」(源氏物語)

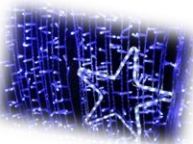
-星の和名-

日本でも、古くから星々に名前を付けて親しんできました



- *平家星、源氏星: 星の色を、「平家の赤旗」と「源氏の白旗」に見立てた呼び名。
- *鼓星: 鼓は、日本の伝統的な楽器で、太鼓の仲間です。四つ星と、その内側に並ぶ三つ星をつないだ姿を現した言葉です。
- *釣鐘星: 釣鐘は、お寺などに吊るしてある鐘(かね)のこと。つくと、“ご～ん…”と音がしますね。
- *すばる: “集まる”という意味の言葉。ここには、若い星がたくさん集まっていて、肉眼でも6,7個の星を目にすることができます。

-イルミネーション-



ドイツのマルティン・ルターが考えたといわれています。森の中から見上げた、夜空に輝く星々のあまりに美しさに感激し、木にろうそくを灯して再現しようとしたのが始まりだそうです。

“小窓”といえば… - キューポラ -



(出典:JAXA/NASA)

国際宇宙ステーション (ISS) に設置された計7枚の窓(横窓が6枚と天窓)からなる観測モジュールです。壮観な、地球観測所としても利用されています。

2020年11月16日(日本時間)より約半年間ISSに滞在することになった野口聡一宇宙飛行士。TwitterやYou-tubeにて、キューポラから見える地球の美しい姿を、日々、届けてくれています。